

八戸市美術館

設計コンセプト/西澤徹夫 + 浅子佳英 + 森純平  
 設計監理/西澤徹夫建築事務所・タカバンスタジオ (現・PRINT AND BUILD) 設計共同体  
 担当/西澤徹夫 浅子佳英 森純平 宮武壮太郎 小泉立



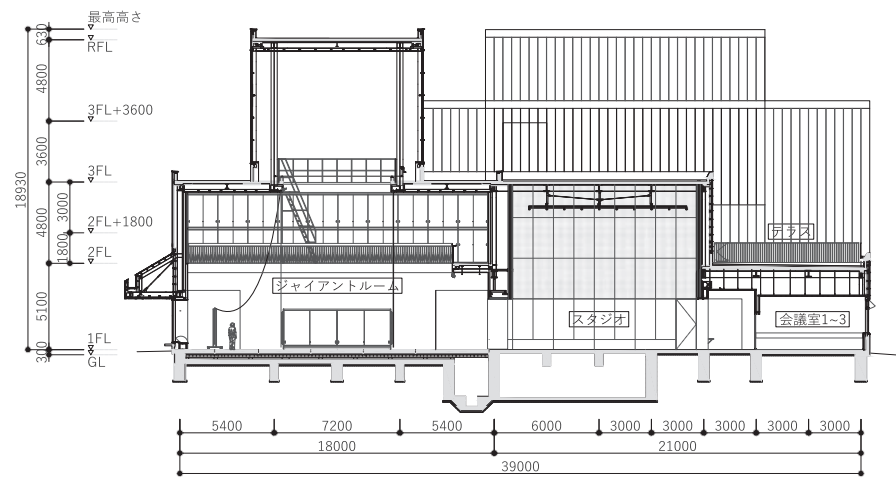
ジャイアントルームから個室群側を見る。カーテンと移動棚によって大空間を分節し、展示やプロジェクトルーム、休憩スペースなどに使用。上部からは明るい自然光が降り注ぐ



カーテンと吸音壁で音環境を制御。様々な活動が共存できる



カーテンと移動棚を寄せることで大人数での活動にも対応



断面図 S=1/400

新しい八戸市美術館は、収蔵・展示が主役である従来型の美術館像から、地域の文化や風俗に根ざしたプロジェクト型のラーニングプログラムを主体とした美術館像へのアップデートを目指している。そのために、進行中のアート作品や創作活動、アートの枠を超えた市民活動など、多様な活動が共存し、人々が新たな気づきを得たり、互いに学び合ったりできる、包容力と寛容性のある空間が求められた。

そこでまず、誰もが訪れ利用することができ、偶然未知のものに出会えるような巨大な空間「ジャイアントルーム」と、一方プロジェクトをより深化させていくことのできる諸機能に特化した「個室群」というふたつの種類の空間を併置させることとした。各「個室群」の入口は「ジャイアントルーム」に直接面していることで迷わずにアクセスできるが、じつは裏ですべて繋がっている、という平面計画になっている。

「ジャイアントルーム」はエントランスであり、休憩・ワークスペースであり、制作や展示も可能なスペースで、18m×45mの平面、最高高さ17mをもつ巨大な空間である。そのため長手方向に動く、4台の移動収納棚と幅3m×32枚のカーテンを設けて、さまざまな学びのための活動を自由に簡易に仕切られるようになっている。また、諸活動を共存させるために、天井や壁面上部は

吸音の仕様になっており、それが大きな空間のアクセントにもなっている。一方、「個室群」はより具体的に、特定の利用者やアーティストによる制作や展示が可能な個別の仕様になっている。たとえば、ギャラリーは、適度なサイズの2室に分節され、大きい方には2枚の回転壁があることで展示に不慣れな市民でも容易に展示が可能、スタジオは天井から重量物を吊ったり壁にビスを打ったり吸音用の穴に専用の金物を取り付けることでスクリーンや作品を掛けることができる、ブラックキューブは映像作品展示に適した暗室化ができる黒い小部屋で、吸音やプロジェクターやスピーカーの天井吊りが可能、という具合だ。

このように、複数の部屋から利用者は都度選ぶことができ、特定の活動に一旦は特化しているからこそ返ってそれを裏切ってみたり、意外な使い方を考えてみたり、また「ジャイアントルーム」と「個室群」をさまざまに組み合わせるのではなく、とても具体的な場が人々を触発していく。未だ創造の過程にあるさまざまなプロジェクトを美術館の主軸にしようとするときには、こうした自由さこそが、建築が目指すべき新しいフレキシビリティといえるはずだ。

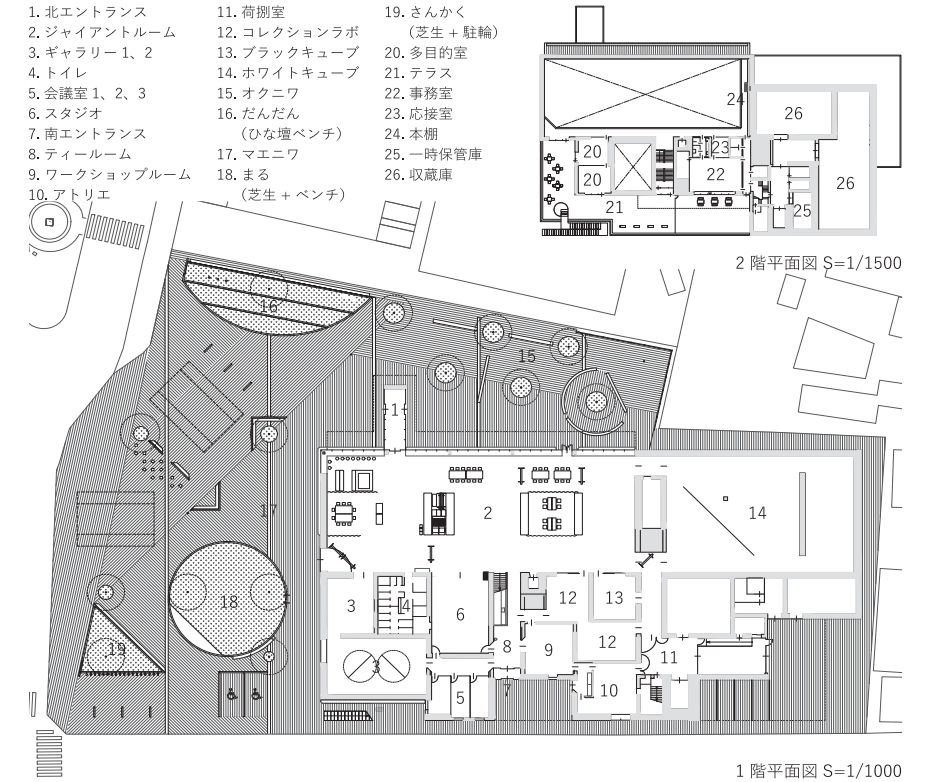


西面ファサード/ハイサイドライトが行灯のように街を照らす



オクニワ/ポリウムは段々状にセットバックし圧迫感を低減

広場には様々な形状の植栽やファニチャーを点在させ、個人から団体までの利用者規模に応じた異なるスケールの居場所を作り出している。今まで周辺市街地に少なかった座ったり休憩できる場所となる。またそれらの配置や舗装の切り替えによって、周辺市街地へのショートカットなどの動線を確保し、美術館利用者以外でも気軽に立ち寄れる場所としている。



ホワイトキューブ/天井金物で仮設壁・照明を自由に配置可能



スタジオ/天井りや吸音が可能でジャイアントルームと連続



コレクションラゴ/収蔵品展示のためのグレーの部屋



ギャラリー/回転壁によって簡易に展示レイアウトが可能



ブラックキューブ/映像展示などに適した吸音性能を持つ暗室



ワークショップルーム/展示室に隣接し鑑賞と制作を連携可能

<b>【建物名称】</b>	八戸市美術館	<b>【主な外部仕上げ】</b>	屋根 超速硬化ウレタン塗膜防水
<b>【発注者】</b>	八戸市 美術館	外壁 押出成形セメント板 カラーガルバリウム鋼板底地式特殊平滑	2F: グラスウール板 t25+ 不燃クロス 天井/グラスウール天井板、岩綿吸音板 t9
<b>【用途】</b>	美術館	開口部 アルミ製ガラススクリーン	天井/直天、ぶどう棚 St C-100*50*20.3
<b>【所在地】</b>	青森県八戸市番町 10-4	外構 インターロッキング舗装	
<b>【設計】</b>	コンセプト/西澤徹夫 + 浅子佳英 + 森純平 建築/西澤徹夫建築事務所・タカバンスタジオ (現・PRINT AND BUILD) 設計共同体 西澤徹夫 浅子佳英 森純平 宮武壮太郎 小泉立	<b>【主な内部仕上げ】</b>	ジャイアントルーム 床/短繊維補強コンクリート + 防塵塗装 壁/1F: 合板 t15+PBt12.5*2+EP
<b>【構造】</b>	構造/オーノ JAPAN 大野博史 藤本智 海老沢孝秀 (元所員)	ホワイトキューブ 床/オーク複合フローリング 壁/合板 t12*2+PBt12.5+EP	天井/グリッド天井 St L-50*50*4
<b>【設備】</b>	設備/株式会社森村設計 吉田崇 川口智之 水谷貴俊 三野誠	ブラックキューブ 床/ループパイルタイルカーペット 壁/合板 t15+PBt12.5*2+EP	一部グラスウール板 t50+ 有孔フレキシ t6+EP 天井/有孔折板ルーバー
<b>【施工】</b>	建築/鴻池組・田名部組・東復建設 特定建設工事共同企業体 電気設備/ユアテック・溝口電気 特定建設工事共同企業体 機械設備/ダイダン・サカモト・葵 特定建設工事共同企業体	コレクションラゴ 床/ループパイルタイルカーペット 壁/合板 t15+PBt12.5*2+EP	天井/ PBt9.5+EP
<b>【規模】</b>	外構/穂積建設工業株式会社	ギャラリー 床/モルタル金コチ + 防塵塗装 壁/合板 t15+PBt12.5*2+EP	天井/有孔折板ルーバー
構造 地上3階		スタジオ 床/単板積層フローリング 壁/ラワン合板 + 難燃ラワン合板 + EP	天井/直天、ぶどう棚 St C-100*50*20.3
階数 地上3階		ワークショップルーム 床/チークパーケットフローリング 壁/ PBt12.5*2+EP 天井/岩綿吸音板 t9	床/ビニル床シート 壁/合板 t12+PBt12.5+EP、ホワイトアッシュ縦見切 + 白色ふき取り塗装 天井/直天
敷地面積 6732.14m <sup>2</sup>		アトリエ 床/鋼製二重床 + 不透湿処理合板 t15+ プナフローリング t15 壁/不透湿処理合板 t12+ 無機質系中性調湿パネル t8 天井/不透湿処理合板 t12+ 岩綿吸音板 t9	
建築面積 3080.21m <sup>2</sup>		収蔵庫	
延床面積 4844.95m <sup>2</sup>			
<b>【設計期間】</b>	2017年3月~2019年1月		
<b>【工事期間】</b>	2019年4月~2020年12月 (本棟)、2021年4月~2021年9月 (外構)		